家族を捨てた少年

黒川エレン

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

家族から逃げた少年のお話

たった１度のＣｉＲＣＬＥのライブで未来が変わるとは思わなかった。

・この作品は作者の妄想全開の作品です。

所々キャラ崩壊があるかもしれません。ｍ（＿　＿）ｍ

目次

序章 …… 1
1話 …… 4
SPIRITの設定 …… 9
2話 …… 14
3話 …… 19
4話 パン …… 25
5話 …… 32
6話 …… 35
7話 …… 41
8話 …… 46

序章

主人公設定

旧名（山吹　透也）０～１３歳

山吹沙綾の双子の弟で年齢は同い年　元々家族の手伝いもする元気ある普通の子でギターが出来ていた。　反抗期に入ってからは手伝いもしなくなり中学２年生の時に母が倒れてから隠れてお金を稼いでいた。

序章

透也「俺大きくなったらお父さんのパン屋さんで働く！」

俺は幼稚園の頃からパンが大好きだった。お父さんとお母さんの焼くパンが美味しくて、毎日小学校から帰ってくると姉と仲良く食べていた。お店の手伝いも良くやっていた。

しかし中学生になってから俺は俗に言う反抗期になっていった。家の手伝いをせず友達とライブハウスで楽器に明け暮れていた。

中学1年生の終わりの季節に母が倒れてた。原因は疲労だった、この時の自分は変な意地を張って隠れてお金を貯め始めた。１回１０００円で行われる刺され屋という方

法で・・・。　始めは辛かったが段々と慣れていく自分が恐ろしかった。この刺され屋の稼ぎを初めてからとにかく腕が痛かった。ギターもその時に辞めた。しかし中学2年生のある日に家族にバレる時が来てしまった…

沙　コンコン「透也ご飯出来たよ。・・あれ寝てるのかな?透也入るよ～　ガチャ

相変わらず綺麗に整頓されてるね。　透也起きて!ご飯だよ!」

布団を剥がすとそこには両腕に包帯を巻いてる透也が寝ていた。しかもタイミングの悪いことにその時に透也が起きたのだ。

透「あっ」

沙「そ、その腕どうしたの?」

透「関係ない。」スタスタ

沙「待って!!」ガシッ

透「イタッ」

腕を掴まれて顔をしかめてしまった。

沙「本当にどうしたの?関係ないとかじゃなくて心配だよ…」

透「だから関係ナ『いい加減にして!』ッ、」

沙「いいから見せて!　ガバッ　な、何これ・・・。詳しく話して!」

透「金稼ぐために刺され屋になった。それだけだよ。」

次に飛んできた姉からの一言で俺の人生は大きく変わった。

沙「なんで自分の体を大切にしないの！そんなの・・・。そんな奴家族じゃないよ!!」

バチーーーン　鈍い音が響いた

右頬が痛い。姉が激しく怒っている。初めて見るかもしれない。　親のために金を貯めていてまた家族で楽しく笑い合えると思っていた。　しかし自分の不注意で見られてしまった。切り傷と刺し傷によって変色した腕を・・・。

俺は姉の一言を言われ部屋にこもった。　ただただ悲しかった。大好きな姉に家族じゃないと言われ

外から姉が謝りに来ているが出る気にはならず夜中にになると愛用のギターと今まで貯めた金を持って家出をした。

1話

現名（黒川　翔）13～15歳←現在
家出をしてから偶然芸能事務所の社長に拾われた透也はそのまま芸能事務所に所属事務所で知り合ったメンバーでバンド（SPIRIT）を組んでいる。黒川は狐の面を付けてギター担当をしてます。

1話

久しぶりに山吹家の頃の夢をみた。

翔「最悪の目覚めだな…」

黒川翔は呟いた。

家を飛び出した後俺はとある芸能事務所の社長に偶然出会い気に入られてそのままお世話になっている。山吹家は自分の申し出により家族を脱退した。恐らく市役所から通知が行って喜んでるか悲しんでるかわからないけれど、今の俺からすればどうでも良いことだ。

バンド活動をするにあたって学校もそのまま辞めることにした。今の自分は事務所

の一室を借りてそこで寝泊まりしている。
あ「翔ーー！起きてる!?」
翔「朝っぱらからうるせーよ　あおい」
あ「ごめんって～♪」ニコニコ
こいつは同じ事務所で同じバンドの仲間の霧矢あおいだ。担当はキーボード　同時期にこの事務所に来ており最初に仲が良くなったのがあおいだ。
翔「てかあおい何で来たんだ？曲合わせは昼過ぎからだろ？」
あ「はぁ～　もうお昼すぎてるよ…」
翔「えっ…。」
時計は13時半を示していた。
あ「早く着替えて来てよ～」
翔「(――ω―ゞラジャ(　☆」
こうしていつもと同じ感じの1日が始まった。
――――
私がSPIRITの専用のレッスンスタジオに入ると美月さんが話しかけてきた。
美「どうだった？翔起きてた？」
あ「ちょうど起きた所みたいでしたよ。」

み「待ったく翔の寝起きの悪さは相変わらずだね～」
あ「みくるさんも美月さんに起こしてもらってましたよね…」
今話しかけてくれたのは神崎　美月さんと夏樹　みくるさん
美月さんとみくるさんは私の1歳歳上で美月さんがＶＯ＆ギター　みくるさんはＶＯ＆ベースであと1人メンバーが　ガチャ　直「やっほーみんな揃ってる～？」あと1人のメンバーがきたわ。
あと1人のメンバーは今入ってきた涼川　直人　私や翔と同い年でドラム担当　このＳＰＩＲＩＴのリーダーでもある。
美「まだ翔が来てないわ。」
直「翔の奴またか」
あ「多分すぐ来るよ。」
み「そう言って1時間ぐらいこない　ガチャ　『悪ぃ　遅れた！』来ちゃたね。」
直「よし今日はミーティングしてから練習するぞ。」
あ「なんの話をするの？」
み「ライブの話しみたいだよ！超テンション上がる！」
直「あぁ　ライブハウスＣｉＲＣＬＥのまりなさんから出演依頼をもらったけどどうする？」

み「出ようよ～最近ライブ出来てないから、久しぶりにみんなでパーって演奏しようよ～」
美「私も賛成よ。」
翔「まぁたまには、こういうのもいいよな。」
あ「私も出たいなー」
直「ならまりなさんに出れるよに言っておくよ。多分社長は1発で許してくれるから大丈夫でしょ。とりあえず俺は連絡してくるからセットリスト考えといてくれ。」
あ「美月さん！楽しみですね！」
美「そうね、最近はみくるとモデルの仕事がメインになってたから久しぶりにみんなでライブするのがたのしみだわ。」
翔「それで何をやろうか？」
み「笑顔のＳｕｎＣａｔｃｈをやりたい！」
あ「私はフレンドがやりたいです！」
この後セットリストが決まりみんなで曲合わせを始めた。
――2時間後――
み「あー　こんな続けてベース弾いたの久しぶりで背中がゴリゴリなるよー　」
翔「基礎練ばっかやってたから通しはきついわ。」

直「まぁライブは2週間後だからゆっくりやってこうぜ。」

ＳＰＩＲＩＴの設定

黒川翔（山吹透也）
身長・１６７ｃｍ
血液型・Ｂ型
誕生日・５月１９日
星座・牡牛座
好きな食べ物・辛いもの　羽沢珈琲店の珈琲
特技・ギターの早弾き　カラオケ
イメージカラー　紫
一人称・俺
今回の主人公で言動は不良っぽいが本人は特に意識しておらず。とても話やすい雰囲気は出しているが基本社長とバンドメンバーしか信用しておらず

神崎美月
身長・１６５ｃｍ

血液型・Ａ型
誕生日・９月１８日
星座・おとめ座
好きな食べ物・マロングラッセ　香りの良い紅茶
特技・歌　ギター
イメージカラー・レッド（マゼンタに近い）
一人称・私
性格は冷静沈着でとても大人びており、きちんとしたプロ意識を持っている。しかし、ツアーライブの際は宿泊先で枕投げに赤面しながら参加したがる素振りを見せるなど、歳相応の少女らしい一面を見せることも

夏樹みくる
身長・１６３ｃｍ
血液型・Ｏ型
誕生日・７月７日
星座・かに座
好きな食べ物・アイスクリーム　ソーダ

特技・ガーデニング　洋服のリメイク　サーフィン　ベース
一人称　　私
元々は実家である海沿いのガーデニングショップでアルバイトをしており、バンド活動には縁がなかったが、「新しいバンドを生み出したい」という美月によって才能を見出され、バンド『ＳＰＩＲＩＴ』のメンバーになる。

霧矢あおい
身長・１５７ｃｍ
血液型・Ａ型
誕生日・１月３１日
星座・みずがめ座
好きな食べ物・サンドイッチ
特技・一目見たアイドルは忘れない　キーボード
イメージカラー・ブルー
一人称・私
幼少の頃から様々な習い事をしており、さらに並外れた運動能力を持つという知識だけでなく実力も十分に兼ね備えた万能少女。

涼川　直人
身長　　１６９ｃｍ
血液型　　Ｏ型
誕生日　　１１月１３日
星座　さそり座
好きな食べ物　　ジャンクフード
特技　　空手　ドラム
一人称　　俺

仕事の選り好みこそするものの、老人ホームでのライブでは演歌調の前口上を行い、幼稚園でのライブでは歌のお兄さんをきっちり演じる等、一度引き受けた仕事はなんだかんだきちんとやり通すプロ精神を持ち合わせている。ライブでは予定していた曲を突然変更する事も多いが、ちゃんと場の空気や客の反応を見てからのサプライズとして行っており、言動に反して思慮深い面もある。

ＳＰＩＲＩＴ（スピリット）

本作の主人公が所属するバンドで過去に「ＦＵＴＵＲＥ　ＷＯＲＬＤ　ＦＥＳ.」で優勝経験がありそのおかげでかなり有名になった。ツアーなどもしていたものの今は個人の仕事が多く来ており神崎美月と夏樹みくるは主にモデル　霧矢あおいは女優　涼

川直人はバラエティー番組　黒川翔は曲作りや後輩達の指導を主にやっている。

2話

練習後

翔「あー疲れた　もう指が動かねー」

み「でもみんな久しぶりにしては完成度は高いよね～」

美「多分みんなバンドの練習がなくとも個人練習はしっかりやってたおかげのようね。」

翔「ちょっと気分転換に散歩してくるわ。」スタスタ

あ「あっ　待って～私も行く！」タッタッ

美「行っちゃったわね…」

直「本当にあの二人は仲がいいよな。　幼なじみみたいだな。俺も部屋に戻って寝るかね。」

み「美月～私達も息抜きに2階のカフェいこうよ～」

美「いいわね。久しぶりに行きましょうか。」

み「やった！決まりだね！」

あおいと事務所の階段を降りてると、遠くの会議室から5人の少女が出てきた。アイドル研修生の丸山彩と女優の白鷺千聖　モデルの若宮イブ　スタジオミュージシャンの大和麻弥　あと一人は初めてみた。

なにかの集まりかと思いながら階段を降りていくと、

あ「ねぇ?どこにいく?私は羽沢珈琲店がいいんだけど、翔はどこがいい?」

羽沢珈琲店の珈琲は美味いし看板娘の羽沢つぐみちゃんは可愛いい。しかしこの珈琲を飲むには難関がある。珈琲店の位置が山吹ベーカリーつまり俺の元家の近くにある事だ。恐らく今の時間だと学校の帰宅時間と重ならないはずだから大丈夫だと思う。

翔「OK　羽沢珈琲にしようか。久しぶりにチーズケーキ食べたいし、つぐみちゃんにも会いた(　ジーッ)…。そんなに睨むなってやましい気持ちはないからな。」ナデナデ

頭を撫でたら秒で大人しくなるあたりは素直だよな。

俺はルンルン気分のあおいと変装して羽沢珈琲店に向かった。

歩いて向かう途中に少し広い公園がありそのベンチで猫耳型の髪型が特徴的や花咲川女子学園高校の制服を着た女の子がギターを弾いていた。

翔「うわっ　あの子ランダムスター持ってるよ。」

あ「ランダムスターって？」
翔「あれはエレキギターで形のインパクトが強いから使う人は変態って言われるから持つ人が少ない珍しい奴だよ」
あ「ふ～ん　じゃああの子は変態なんだね！」
そんな感じの会話をしながら羽沢珈琲店に向かった。

翔達が通った２０分後
香「ふんふ～ん　やっぱりギター楽しいな～1人で弾くのもいいけどみんなで弾きたいな～早くみんな来ないか？」ジャラーン
沙「香澄ー　お待たせ～」
り「香澄ちゃん待った？」
香「あっ！沙綾～　りみりん～大丈夫だよっ！あとはおたえと有咲だけだね！」
沙「おっ　噂をすれば…」
入り口の方からおたえと有咲が来た。
有「悪ぃ少し遅れた。」
り「なにかあったの？」
お「うん、有咲がおっちゃん達の部屋で一緒に寝たいっていうから私が『そんな事

言ってねぇだろ！』

沙「あはは、なんとなく分かったよ。おっちゃん達可愛いもんね。」

有「沙綾も乗んなくていいからさっさとＣｉＲＣＬＥ行くぞ！」スタスタ

香「あ～　有咲待ってー」

ｐｏｐｐｉｎ　ｐａｒｔｙはいつも通りに平常運転だった。

ＣｉＲＣＬＥに着いたｐｏｐｐｉｎ　ｐａｒｔｙ

まりなさん「みんないらっしゃい！」

香「まりなさんこんにちわー！」

まりなさん「あっそうだ　今度のＣｉＲＣＬＥのライブで募集してた最後の１組がさっき決まったよ！」

香「えー　なんてバンドですか?!」

まりなさん「ＳＰＩＲＩＴていうアイドルバンドだよ。そこにポスターが貼ってあるでしょ。多分みんな有名人だから見たら分かると思うよ！」

香「あっこの仮面の人見たことある！」

有「みくるさんがいるバンドじゃねぇか。」

り「有咲ちゃん知り合いのひと？」

有「あぁ　みくるさんはガーデニングが得意な人でジャンルは違うけど良く盆栽の相談とかしてるんだ。」
お「このバンド　前にＳＰＡＣＥで見たことあるよ。」
沙「良くテレビとかに出てるよね。あれ、このお面をつけてる人のギター・・・。どこかで見たことあるような・・・。」
しっかり見たことはなかったので気づかなかったが私はこのギターを見たことあるような気がした。
香「沙綾～どうしたの？」
沙「えっ　大した事じゃないよ。このギターどっかで見たことあるような気がしてるんだよね。」
有「そりゃよくテレビに出てる人達が持ってるギターだから見たことあるだろ。」
沙「あはは、そうだよね・・・。それより早く練習しよ！」
香「そうだ練習！早くみんなでキラキラドキドキしたいなぁ～」
まりなさん「頑張ってね！」

3話

2階のカフェで
練習の終わりにみくるとカフェに来て紅茶とマロングラッセを楽しんでいたらみくるがふと
み「ねぇ美月。この後って仕事ないよね？」
美「ええ　今日はもうお仕事も練習もないわよ。」
み「実はね、事務所から新しいアイドルバンドが出るみたいなんだよね！この後少しみにいかない？バンドのメンバーの中にイブちゃんもいるみたいだし！」
美「そうね　見てから帰るのもいいわね。新しいアイドルバンドにも興味あるからそうしましょうか。」
そう言って私とみくるはカフェを後にした。
レッススンスタジオ前
美「みくるここのスタジオで合ってるかしら？」
み「うん、スタッフさんに聞いた場所だとここになるよ。」
美「それにしてはかなり静かね。」

このスタジオからは楽器の音が全く聞こえずとてもバンド練習をしてるとは思えない。

み「確かにね～　まぁ開けてみれば分かるでしょ　失礼しまーす！ガチャ　あれ？」

美「こら　みくるそんな突然入ったら…」

み「彩ちゃーーん！久しぶりだね！」

彩「ひゃっう！　びっくりしたよ～　みくるちゃん」

美「久しぶりね彩ちゃん。」

彩「美月ちゃんも久しぶりだね。」

み「彩ちゃんここでバンド練習じゃないの？なんで彩ちゃんひとりなの？」

彩「実はみんな用事があって私だけになっちゃったんだよ。」ウルウル

美「なら少しだけギターとベースと彩ちゃんでやって見ましょう。楽譜があれば弾けるから彩ちゃんの練習に手伝ってあげるわ。」

彩「うぅ～ありがとう美月ちゃん　みくるちゃん。」

こうしてギターとベースで合わせながら彩ちゃんに歌のコツを教えて時間は過ぎてった。

羽沢珈琲店につくと看板娘の羽沢つぐみちゃんが接客をしてくれた。

つ「いらっしゃいませ！」
元気な声で
あ「やっほー　つぐちゃんおじゃまします。」
つ「あっ、あおいさんとマネージャーさんお久しぶりです！」
実は俺は顔バレを防ぐためあおいのマネージャーであると伝えてある。
翔「どうもつぐみちゃん　珈琲２つとチーズケーキとサンドイッチを１つずつお願いします。」
つ「かしこまりましたっ！少々お待ちください！」スタスタ
あ「いやー　ここの珈琲飲むの久しぶりだよ。最近練習やら舞台やらで忙しくて来れなかったから新しい映画『いけない警視総監』の前にいいリフレッシュになるよー」
翔「ほんと凄いよな、昼ドラだった『いけない刑事』が今じゃ警視総監にまでなってその主役があおいだからな」
あ「急に褒めないでよぉ～恥ずかしいじゃん」
つ「お待たせしました～珈琲２つとチーズケーキ　サンドイッチです。」
この後俺とあおいはつぐみちゃんと３人でお茶をした。
２時間後・・
お会計時

あ「ごめんね　なんか結構な時間居ちゃったね。」
つ「大丈夫ですよ！私もお二人とお話出来てとても楽しかったですから！」
翔「そう言って貰えると嬉しいよ。じゃああおい行こうか。」
あ「うん、じゃあねつぐみちゃん！」
つ「ありがとうございました！」

羽沢珈琲店を出たあと
あ「私山吹ベーカリーでパン買って来るから少し待っててくれる？さすがに入りずらいでしょ？」
翔「あぁ少し離れた所で待ってるよ。早めに頼むな。」
あ「うん、ありがとう！」タッタッ　ガチャ　カランカラン
純「いらっしゃいませー　あっ！あおい姉さんお久しぶりです！」
あ「久しぶりだね。純君また背伸びたんじゃない？」
この子は山吹家の現長男で私のファンでいてくれる山吹　純　最近かなりの成長期で顔が少し翔に似てきている。
純「やったー！あおい姉さんに褒められた！お母さーん！」ダッダッ
あ「ありゃー　行っちゃったか。でも元気なのはいい事だもんね～」

独り言を言ってパンを選んでいると奥から山吹母が出てきた。
母「あら　あおいちゃんいらっしゃい。久しぶりね～」
あ「お久しぶりです！最近お体の方は大丈夫ですか？」
母「えぇ子供達が手伝ってくれてるから調子は大丈夫よ。」
あ「いいお子さん達ですね！よし今日はこれください！」
私は食パン一斤とメロンパン　カレーパンを買う事にした。
母「はい　いつもありがとうね。純もあおいちゃんが来てくれると元気が出るって言ってるからこれからもよろしくね。」
あ「いいえ　私もここのパンと純君の明るさに元気をもらってるのでこちらこそよろしくお願いしますね。」ガチャ　カラン
山吹母には悪いと思ってるけど翔のことは内緒にしておくしかないんだよね・・・。
あ「お待たせ～」タッタッ
翔「やっと来たな。ほら早く行くぞここに長居してたらいつ知り合いに遭遇するか分かったもんじゃないからな。」
あ「はいはい　ほらカレーパンあげるから食べながら行こ。」
翔「珍しく気が利くな。」
あ「珍しくは余計ですぅー　ほら早く行くんでしょ行こ！」

こうして気分転換を終えた私と翔は事務所に戻っていった。

4話　パン

今日は憂鬱な気分で専用のスタジオに向かう

直「さぁ今日は事務所の周りの商店街を散歩しようの撮影日だ。回る店は決まってるからその通りにな。」

美「本当にいいの？この手順だと途中山吹ベーカリーによることになってるけど翔はきついんじゃないかしら？」

翔「あー　多分大丈夫かなと　とりあえず仮面を付けてあまり喋らないようにしとくから。あまり気は乗らないけど仕事だからな。」

あ「まぁトークなら私やみくるさん　美月さんに任せときなさい！」

本当に事情を知ってるメンバーには助けられてると感じるな…今度お返しをしなくちゃな

み「多分撮影するのは昼間だから普通の学校の子は居ないと思うよ。　私は翔の姉さん見てみたかったけどね。」

翔「今度美月と行ってくればいいさ。」

直「そろそろ迎えが来るから行こうか。」

内心は心臓バクバクや

2時間後
スタッフ「では撮影開始するのでよろしくお願いします！」
俺達は花咲川の街を散策して行った。
そしてついに山吹ベーカリーについた。
あ「翔大丈夫？」
み「無理だけはしないでね？」
バンドのメンバーが心配をしてくれてる。
翔「あぁ　大丈夫だ。　行こうか。」
美「じゃあ入るわよ。」カランカラン
そこに居たのはまさかの・・・。
沙「いらっしゃいませ！　山吹ベーカリーへようこそ！」
翔「マジカ・・・。ナンデ・・・。」
おかしいこの時間は学校のはず・・・。
あ「あっ・・・　どーもＳＰＩＲＩＴです。本日はよろしくお願いします！」
沙「いえいえ　こちらこそよろしくお願いします。」

美「じゃあ自己紹介をお願いします。」
沙「はい！　えーこの山吹ベーカリーでお手伝いをしてる山吹沙綾です。いつもはこの時間は学校があるんですが、本日は開校記念日なものでお休みなんですよ。」
最悪だ…。そんな偶然いらないってとりあえず大人しくしてるしかないな。
み「えーと　沙綾ちゃん！おすすめはなんですか？」
沙「こちらのちぎりパンになりますね！量もあって分けやすいので、私も良く弟達と食べてます…。」
確かに食べてた。パンは５つに分けられるから４兄妹の俺達は残りのひとつを良く争ったのも覚えてる。
み「じゃあ　そのちぎりパンください！私達も５人バンドだからちょうどいいね！」
直「あぁそれにしようか、ちぎりパンでお願いします。」
沙「はい、ありがとうございます！少しおまけしときますね！」ガサガサ
あ「沙綾ちゃん　ありがとうございます！」
翔　「コクッ」
美「わざわざごめんなさいね。後でみんなで頂くわね。」ガチャ　カランカラン
沙「ありがとうございました！またお越しください！」
こんなに疲れるとは思わなかった。

ロケ終了後

俺達は久しぶりに4人で歩いて帰ることにした。（直人はバラエティーの撮影があるため車で離脱）

翔「久しぶりだな。こうやって4人で移動なんてしたことないんじゃないか？」

あ「確かにね～　私はよく翔といて美月さんはみくるさんとよくいますもんね。」

美「そうね。私とみくるは仕事が共通だかその事を話したり現場一緒だったりでよくいるわね。」

み「そうだよね～あっあそこの公園でさっきもらったパン食べようよ！」

美「みくる。　私達がここにいるのが通行する人にバレたら大変なことに『大丈夫だって～ちゃんと変装してるんだからバレないって！』分かったわよ。ただし1人にでもバレたら即事務所に戻るわよ。いい？」

み　あ　翔「分かった（わかりました。）」

美「よろしい。なら行きましょ♪＊。」

翔「俺飲み物買ってくるわ！」タッタッ

あ「あっ私も行く！　待って～」タッタッ

美「本当にあの二人仲良しよね。」

み「ほんとほんと　カップルです！って言われても多分分からないよね。」
美「本当は翔にも学校に行って『すみません』ん？」
声のする方を見てみるとそこには可愛いお下げをしてランドセルをしょった女の子がいた。
？「あっあの神崎美月ちゃんと夏樹みくるちゃんですよね？」
美「ええ　そうよ」
み「なになに私達のこと知っててくれるの？お姉さん嬉しなぁ～」
？「うわぁ～本物だ!!」キャキャ
美「えっとあなたお名前は？」
？「はっ！失礼しました！私　山吹沙南と言います。お二人のことはいつもモデル雑誌で見させてもらってます！」
み「山吹って沙南ちゃんもしかして商店街にある山吹ベーカリーって沙南ちゃんのお家？」
沙南「はい！山吹ベーカリーを知っててくれたんですか？ありがとうございます！」
美「ええ先程テレビの撮影でお邪魔させてもらったのよ。あなたのお姉さんにもあったわよ。」
沙南「そうなんですね！あと、あのお家にお兄ちゃんは居ましたでしょうか？」

み「お兄ちゃんって確か　えっと・・・。純君だっけ？」
沙南「あっ純兄じゃなくて透也お兄ちゃんの方なんです・・・」
み　美「えっ・・・。」
沙南「お母さんに透也お兄ちゃんは長い旅行に出てるからしばらく帰って来ないって言われててもしかしたら今日は！と思ってたんですけどやっぱり居ないですよね・・・」
み「そ、そうなんだ・・・。沙南ちゃんは透也お兄ちゃんのこと好きなの？」
沙南「はい！大好きです！お家にいた頃は良く遊んでくれましたし、ギターを弾いてくれたり、一緒におやつも作ってくれたとても優しいお兄ちゃんです！」
美「そう・・・。優しいお兄ちゃんなのね。早くお兄さんが帰って来るといいわね。」
沙南「ありがとうございます！あっもうこんな時間！私お家のお手伝いをしないといけないので失礼しますね！美月ちゃんとみくるちゃんに会えて嬉しいかったです！」
タッタッ
そう言って沙南ちゃんは走って行ってしまった。
み「行っちゃたね・・・美月どうしよ・・・。」
美「そうね、とりあえずみんなが来たら事務所に戻りましょうか。声を掛けられちゃったしここにいるのは翔にとって危ないかもしれないから。」
み「う、うんそうだね。あっ翔達が戻って来たよ。」

翔「お待たせ～　んっ？どうしたなんか暗い顔しちゃって？」
美「話は移動しながらにしましょ。」
あ「えっまさか今の短時間に声を掛けられちゃったんですか？」
み「うん掛けられちゃったんだよね。」
話ながら公園でて、事務所に向かった。
美「翔」
翔「なっなに？なんかマジな顔になってるけど…」
美「さっき私達声を掛けられたって言ったわよね。実はねその声を掛けてくれたの沙南ちゃんだったの。」
翔「さっ　沙南？」
美「えぇ　あなたに会いたいって言ってたわ。」
み「さらに大好きとも行ってたね！」
翔「沙南や純には会いたいって思うけど、もう会えないからな…今となっては赤の他人だし…。」
あ「翔…。」
翔「お前らが暗い顔すんなって、ほら早く戻ってバンドの練習でもやろうぜ！」
美「そうね行きましょう。」

5話

山吹家

沙南「だだいまーお母さん！」カランカラン

山吹母「あら、おかえりなさい。沙南遅かったわね、大丈夫だった？」

沙南「うん！実はね帰って来る途中に公園でね！美月ちゃんとみくるちゃんに会ったんだ！そんでね！さらにお話も少ししちゃたんだよ！」

山吹母「よかったわね。お母さんご飯の用意してくるわね。」

お母さんと入れ違いに奥からお姉ちゃんが出てきた。

沙「あっおかえり沙南。なんかいい事でもあった？凄い笑顔だよ。」

沙南「お姉ちゃん聞いて聞いて！あのね！今日帰って来る途中にね！透也お兄ちゃんに似てる人が公園に入ってくのを見てね！もしかしたらって思って行ってみたらいなくなってて、でもね！ベンチにみくるちゃんと美月ちゃんがいてね！少しだけどおしゃべりしちゃったんだ～」

沙「えっ…。沙南透也見たの！どこの公園にいたの!?」

お姉ちゃんが激しく動揺してるのがわかる。

沙南「お姉ちゃん多分私の見間違いだよ。だって透也お兄ちゃんは旅行に行ってるからここら辺にいるわけないじゃん。」
沙「そっ、そうだよね。ごめんね。ほら手を洗ってきてね。」
沙南「はーい　しっかりと手洗いうがいをしてきまーす！　」ドタバタ
沙「こら沙南廊下を走らないの！」

ライブ前日
最後の練習のために専用スタジオで練習していた。
み「はぁ～疲れた！休憩しようよー」
あ「お疲れ様です。さすがに通しを連続でやるのはきついんじゃないですか？」
直「そうだな。休憩を挟んで後は軽く各々苦手なところをみんなで合わせて終わりにしようか。前日にいつも通りの練習をするのは良くないからな。」
み「りょ～かい。とりあえず休憩はいりま～す。」
１２分後…
コンコン
あ「はーい　どうぞー」
ガチャ　彩「こんにちわ！練習中失礼します！」

美「あら、彩ちゃんどうしたの？」
彩「あの、明日ＳＰＩＲＩＴのライブがあるって聞いて、私明日お休みなのでバンド活動の見学をしたいって思ったんだけど、明日ＳＰＩＲＩＴの皆さんについて行ってもいいですか？」
み「いいじゃん！私は彩ちゃんがいてもいいと思うよ！」
翔「確かにな。彩ももうすぐデビューするだっけか？俺達の活動で良ければ見学してくれていいと俺も思う。」
あ「直人どう？ダメ？」
直「先輩からのお願いを断るわけないじゃないですか。」
彩「うぅ～みんなありがとう～」ウルウル
み「もう！彩ちゃんはほんとすぐ泣いちゃんだから」ナデナデ
美「さて！休憩も終わりにして、最後の調整をしましょうか。彩ちゃんあなたはどうするのかしら？」
彩「あっ　私はこの後打ち合わせがあるので失礼します。明日はよろしくお願いします！」
み「また明日ね！彩ちゃん！」
そんな感じの前日でした。

6話

ライブ当日楽屋で

翔「おっ始まったな。」

あ「だねー今はｐｏｐｐｉｎｐａｒｔｙってバンドらしいよ。見に行く？」

翔「いやいいや、それより気になるのはさっきいたあのピンクのクマがいるバンドが気になるかな。」

み「翔しらないの？あれはミッシェルって言ってハロハピちゃん達のＤＪなんだよ！」

美「みくる詳しいわね？」

み「たまに路上ライブしてるのを見てたからね！あのバンドはとっても個性があっておもしろいよ！」

翔「後で見てみるか。」

あ「てか、今日のライブほんとに私も歌うの？みくるさんと美月さんだけじゃないの？」

直「まだ言ってるのか？あの時決めただろ？大丈夫だよ。落ち着いていけよ。」

美「そう言っていつも本番でセットリストを変更してるのはどこの誰なのやら。」
み「うんうん確かにね！私達の場合セトリを考えてもだいたい変更するよね～」
直「いいじゃん！お客さんも喜んでくれるように俺だってしっかり考え『コンコン』ん？はい？」
スタッフ「ＳＰＩＲＩＴの皆さん次が出番なので準備されたら舞台裏にお願いします！」
美「わかりました。」
み「あー久しぶりだから緊張する～」
直「じゃあ忘れ物のないように移動しますか。」
舞台裏
み「ほんとに本番前なんだなって思うよね。」
美「そうね。あら？今演奏しているバンドなかなかいい感じね。」
あ「美月さんもそう思いますか!?なんか王道ガールズロックって感じで盛り上がりますよね！歌からも仲の良さも伝わってきますし！これは穏やかじゃない！」
美「あおい落ち着いて。確かに演奏に関しては気になる点は聴いてる限りだといくつかあるわね。けどバンドの基本　仲間を信頼することに関しては完璧じゃないかしら。」

翔「この感じだとｐｏｐｐｉｎ　ｐａｒｔｙの演奏も聴いておくべきだったかもしれないな。」
み「あっ演奏終わったみたいだよ。」
Ａｆｔｅｒｇｌｏｗのメンバーが舞台袖に戻ってきた
直「お疲れ様です。とてもいい演奏でしたよ。」
蘭「えっ、あっありがとうございます。」
ひ「あーーー!!　つぐ！見てよ！本当にＳＰＩＲＩＴのメンバーの方々がいるよ！」
つ「ひまりちゃん分かったけど舞台袖だから静かにね。」
巴「そうだぞひまり。それにＳＰＩＲＩＴは次なんだからあまり話てるのも良くないからないくぞ。」
モ「なので盛り上がってるひーちゃんを置いて戻りましょー」
ひ「あ～みんな待ってよ～」タッタッ
美「彼女達も面白いわね。」
直「さっ出番だ！行くぞ！」スタスタ
ついに舞台に立つ時がきた。
直「皆さんこんにちは！ＳＰＩＲＩＴです！」
キャー!!

本物だ!!
直「ではここでメンバー紹介しまーす！」
イエーイ！
直「まずはベース　夏樹みくる！」
みくるちゃーん!!
こっちみて!!
少しベースを披露してから
み「今日は来てくれてありがとう！みくるのミラクルでみんなに忘れられない思い出をプレゼントするよ！」
イエーイ!!
直「続いてキーボード　霧矢あおい！」
あおいちゃーん!!
穏やかじゃなーい!!
少しキーボードを披露してから
あ「遂に始まったね！私達今日のためにたくさん練習してきました！一生懸命演奏するから楽しんでいってね！」
イエーイ!!!!

あ「この歓声穏やかじゃなーい!!」
直「続いてギター　神崎美月と黒川翔だ！」
キャーー!!
美月様ー!!
翔君ー!!
ギターを少し披露してから
美「みんな楽しんでる?!」
イエーイ!!!!
美「今日は来てくれ本当にありがとう！最後まで全力で楽しんでね!!翔もそう思ってるわよね？」
翔「コクッ」
美しいー!!
翔君クール!!
み「最後はドラム！涼川　直人！」
リーダー!!
カッコイイ!!
ドラムを少し長く披露してから

直「ＣｉＲＣＬＥ合同ライブへようこそ！今日はみんなにいいお知らせがあるんだ！」

えー！

なになに？

直「最後に披露する楽曲はまだ未発表の新曲だ！みんな最後までついて来いよ！！！！」

おぉー！！

ついて行くー！！！！

美「それじゃ１曲め聴いてください。『大人モード』」

キャーー！

『・・*:　*・・・　・・*:　*・・・』

美月とみくるがデュエットで歌い出してライブが始まった。

7話

客席

香「うわ～始まる前から凄い人気だね！」

有「そりゃそうだろ。人気モデルの２人がいてイケメンのドラマーがいて今人気急上昇中の女優がいてさらに滅多に喋らずギターの腕が上手いってゆうやばい人しかいないバンドなんだからな！」

り「確かに凄いよね。私もよくお姉ちゃんと美月ちゃんとみくるちゃんのファッション雑誌みてるよ。」

お「そういえば沙綾？どうして突然ＳＰＩＲＩＴのライブを客席側からみたいなんて言ったの？」

沙「えっと・・・。やっぱりさ！凄いバンドの演奏はお客さんとしてみてたいじゃん！」

香「うんうん　やっぱりライブを見る時は客席から見た方が迫力あるもんね～」

直「皆さんこんにちわ！ＳＰＩＲＩＴです！」

有「ほら始まるみたいだぞ。」

『・*:　*・.　.・♪』
ウォーー!
パチパチパチ
直「へへっみんな乗りすぎだぜ!本当に感動はこれからだ!」
あおいがキーボードを持ってセンターに出てきた。
あ「次の曲いきます!聴いてください!ｌｕｃｋｙ　ｔｒａｉｎ!」
ウワァーー!
これもなんの問題もなく成功した。
美「残念だけど次が最後の曲になりました。」
えぇーー
み「だけど次は最初に言ったとおり未発表の新曲だよ!」
美「聴いてください。私とみくるで
ＬＯＶＥ　ＧＡＭＥ」
ウォーー!
『・*:　*・.　.・　.・*:　*・.』
演奏中に
あ（あっ…。あれは沙綾ちゃん?なんでいるの?前に沙綾ちゃんから聞いた話だと

家の手伝いで音楽からはなれてるって…　待って！翔の今使ってるギター昔から使ってるやつじゃん！あ～あれは沙綾ちゃん翔のこと思いっきり見てるね…）

沙（やっぱり…。あのギター透也のと同じのだ。確か翔さんだっけ…演奏が終わったらあおいちゃんに聞きに行こう…。）

香「沙綾～どうしたの？ずっとお面の人の事みつめて？」

お「好きなの？」

り「そうなの？沙綾ちゃん？」

沙「へっ?!ちっ違うって！そんなんじゃないから！」

有「本当にそうか～」

沙「もうっ　有咲まで～違うって！」

香「それにしても凄いよね～なんかこうドーンって感じがしない？」

お「香澄の言いたいことわかるよ。」

香「あっなんか今ならいい歌詞をかける気がする！ちょっと1回帰るね！また後の反省会でね～」タッタッ

り「あっ待って私もいくよ　待って～香澄ちゃーん」タッタッ

有「なら1回ここで解散だな。私も1回帰ってから行くけどおたえはどうするんだ

？」
お「私もギターを置いてから行くよ。肩が固くなっちゃてストレッチしてからいくね。」
有「沙綾はどうするんだ？」
沙「えっと、私は最後まで見ていくよ。」
お　有『ハッ！』
沙「ど、どうしたの？」
お「沙綾まさか本当に好きだったの？」
有「これはこれは」
沙「　ン、モー!!その話はいいってばー」
有「わりぃわりぃさて、じゃあ私たちは先に戻ってるからまた後でな。」
沙「うん。また後でね！」

演奏終了
直「以上！ＳＰＩＲＩＴでした！」
み「またね～」
美「フリフリ」

あ「これかもＳＰＩＲＩＴをよろしくね～」

ワァーーー

そしてステージを後にした。

8話

楽屋
翔「あーー疲れたーー」
み「うんうん久しぶりだったけどいい演奏ができたね！」
美「これでバンド活動はまたしばらくおやすみね。」
直「まぁ個人の仕事も有難いことに貰えてるからそちらも頑張りましょうか。」
み「そうだね！」
少し離れた所で
あ「しょ、翔あのね…。」
翔「ん？後で聞くわ。とりあえずトイレ行ってくる。」ガチャ
あ「あっ…。」
通路を歩いていくと後ろから
？「あっあのー」
翔「うん？」
俺は振り返った。そこには姉がいた。

沙「やっぱり透也だよね？今までどこに…。」
翔「うっ…。」
だめだ…。
沙「私ね、透也に言わないといけないことがあるの。」
やめてくれ…。
沙「あの時は本当に」
聞きたくない…。
沙「ごめんなさい！」
姉は深く頭をさげてきた。だけど…。
頭が真っ白になって何も言葉が出てこない。
俺も謝らなければいけない。
けど俺は逃げた走ってＣｉＲＣＬＥから飛び出した。
沙「待って!!」
姉が追いかけてくる
元々運動は得意ではないので追いつかれるかもしれない。だけど走った。
すると
沙「きゃっ！」

姉が転んだ　俺は足を止めて振り返った。その転んだ場所が良くなかった。
翔「マジかよ！」ダッ
道路の真ん中で転びトラックから走って来ているのが見えた。その瞬間に姉に向かって走った。
間一髪の所で姉を引っ張りお互いに轢かれずに済んだ。やはり俺は甘いな。
しかし慌てて助けたものの言葉が出ない。
沙「あ、ありがとう…。」
翔「別に…。」
沙「あ、あのさ透也、私納得してないからね。家を出ていった事。」
翔「っ…。」
沙「だからね。透也の口からしっかりと話して私だけじゃなくてお父さんとお母さんともね。そして納得させて。お願い。」
翔「分かった。今度向かうよ。」
沙「ならＬＩＯＮ交換しよ。透也の都合がいい時で大丈夫だからね。」
翔「とりあえず戻ろうか。沙綾。」
沙「あれ？前みたいにお姉ちゃんって呼んでくれないの？」
翔「いやもう家族じゃないからな。それに恥ずかしい。」

たわいもない話ができる。それがこんなに幸せな気持ちになれるとは思わなかった。

あ「もう！どこいってたのよ！」
翔「悪い悪い　ちょっとトイレにな、」
あ「またそんなこと言って！」
み「まぁいいじゃんそれよりも早く事務所に戻ろうよ！」
翔「ん？今日はもう解散じゃないの？」
美「さっき社長から電話があって1回戻って来て欲しいって連絡があったのよ。」
直「珍しいよな。ライブ後に戻って来て欲しいなんてなんか急な用でもあるのかな？とりあえず戻るか。」
み「あ～あ　早く帰ってお風呂入りたいよ。」
あ「ほんとですよね。なんでわざわざライブ後なんでしょうかね？」
直「だから早く戻るぞって。」
み「はーい」